

図 土地利用図

(2)土地利用

本地域の土地利用は、住宅地が広がり、教育機関などの公共施設や商業・業務施設などが東部や中部、南部にみられる。全体に低層住宅が多く、東部などには、中高層住宅が分布している。

商業・業務施設は小規模なものが東部、中部などに分布している。

学校などの公共施設は東部、中部、南部に、公園は豊里中央公園があるほかは、小規模なものが点在している。



資料) 国土地理院

(3)道路網

本地域の幹線道路は、東部を北西南東方向に通っている内環状線がある。

本地域内には広幅員の幹線道路は少ないが、幹線道路が中部などに、北西・南東方向に通っている。

区画道路は、一般の生活道路で、乗用車の対向が可能な幅員の道路で、東部や南部などにみられる。

狭隘道路や行止り道路は、乗用車の対向がしにくいかできない道路や袋小路となった行止りの道路で、中部や南部の一部などにみられる。

図 道路網図



作図) ランドシステム研究所、岡本

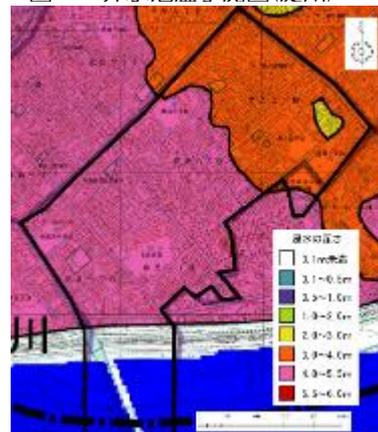
2-4.災害予測

(1)水害予測

①淀川外水氾濫

淀川の外水氾濫予測図によれば、本地域は、浸水深の最大は4.0m~5.5mで、この区域は、南半部にみられ、北東部では3.0m~4.0mの浸水深、東部の一部で2.0m~3.0mとなっている。収容避難所である豊里南小学校は、1階まで、北淀高校、新東淀中学校は2回まで浸水する予測である。

図 外水氾濫予測図(淀川)



作図) ランドシステム研究所、岡本

②神崎川・安威川 外水氾濫

神崎川・安威川の外水氾濫予測図では、本地域は、中南部で1～2mの浸水が発生し、北西部の一部で0.1m～1mの予測となっている。

③内水氾濫

内水氾濫予測図によれば、本地域は、1.0m～2.0mの浸水深が南部にみられ、中部では0.5m～1m、0.1m～0.5mの浸水となる予測となっている。

(2)地震予測

①震度予測

南海トラフが活動した時の震度予測は、本地域は全域が震度6弱の激しい揺れが発生すると予測され、上町断層の地震では全体が震度6強で、一部震度7の揺れと予測されている。



②液状化

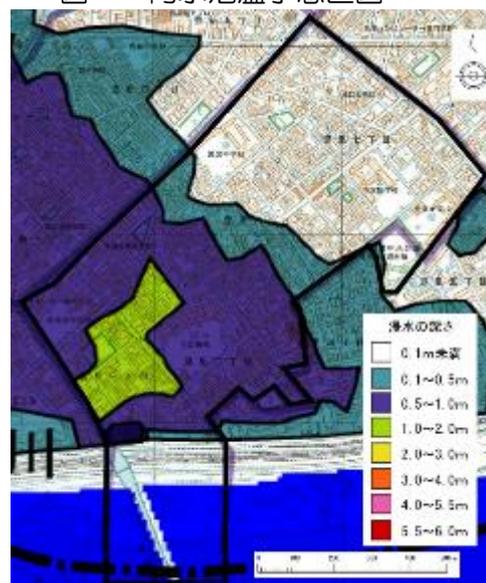
地盤の液状化はその土地の地下に堆積する砂層の分布や固結度、地下水位などの状況により大きく変化する。

本地域の液状化の危険性は、全般に高く、液状化が発生しやすいと予測されている地区が広がっている。

(3)南海トラフ地震の予測

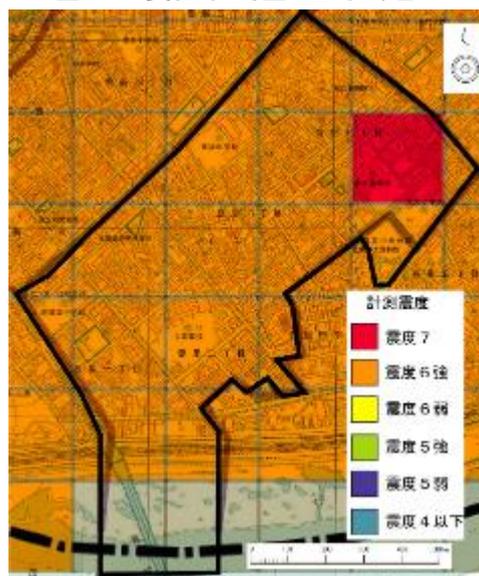
平成25年8月に、大阪府から発表さ

図 内水氾濫予想区図



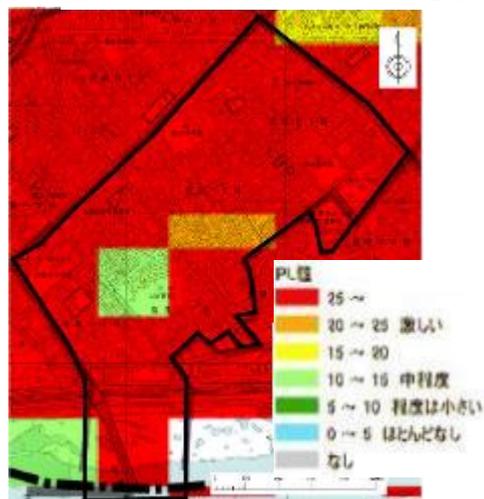
作図) ランドシステム研究所、岡本

図 震度予測図(上町断層)



資料) 大阪府

図 液状化予測図(南海トラフ)



資料) 大阪府